領域名：基礎看護

報告者：栗原幸子

教育及び実践の課題

基礎看護領域が担当している生活援助・療養援助技術I・II・IIIやヘルスアセスメントでは、ひとつの科目を複数の教員が担当し、少人数制で教育を行っている。このような体制で教育を行うことで、細やかな指導が可能になると経験的に感じているが、エビデンスは明確ではない。

活用した論文の概要

チームティーチングは「コースの学習活動を計画、実施、評価するために一緒に働く 2 人以上の教育者のグループ」と定義され、社会的認知理論によって裏付けられている。チームティーチングの教育者にとっての利点は、看護教員は、チームメンバーからお互いに学ぶこと、お互いを活性化させ、専門的な発展の役割も果たすことである。さらに、新人教員とベテラン教員がパートナーになることは、新人教員にとって、職場文化の学習と有益なスキルや行動のモデルの学習を可能にする。学生にとっての利点は、成人教育の最良の実践であり、学習成果の改善につながることである。テーマに関した異なる教授方法、異なる視点、および経験などに触れる機会となる。チームメンバーと教員との専門的なやり取りはモデルを示す。学生は、専門的な問いあるいは疑問を解決するための質問を潔く受け入れることを学習し、敵意を抱くことなく意見交換することを見て相互尊重の姿勢を学ぶ。

うまく機能しているチームは相互依存しており、相互に敬意をもったやりとりをして、対等な信頼と支援を示す。しかし、チームティーチングは非常に時間がかかるし、一人で教える教授法より注意深く進行中の計画をしなければならない。既に時間的にストレスを感じている教員は、チームティーチングによる恩恵と利点を認識すべきである。そして、管理部による支援が必要である。単位数の軽減、クラスの人数の削減、あるいは、仕事の日程の調整はチームティーチングの手助けになるかもしれない。

教育及び実践への活用

文献抄読とディスカッションを通して、看護教育ならではのチームティーチングのあり方や、科目の学習内容や学生の学習段階をふまえて、チームティーチングを取り入れていく必要性を再認識できた。現在は、同じ専門領域の教員によるチームティーチングを実施することが多いが、異なる専門領域の教員によるチームティーチングを取り入れている科目もある。どちらも、教員は一同に集まり考え方を統一するなど、チームティーチングを行うための準備を行うことが求められることから、ひとりで教えるよりも教育に時間と労力を費やす。チームティーチングを継続するためには、教育効果に関するエビデンスを提示し、教員を説得し巻き込む必要があるため、エビデンスとなる研究を進める。

参考文献

Susan Hellier, Lynda Davidson. (2018). Team Teaching in Nursing Education, the Journal of Continuing Education in Nursing, 49(4), 186-192.